

どに転落防護壁（ホームドア）が順次設置されているが、全体から見ると普及に時間がかかり過ぎだ。東京メトロでは、丸ノ内線、南北線の全駅設置以外、その他の路線では残念ながら、まだ設置されていない駅のほうが多



車前に判明可能となり、利用者にとって有益で利便性も安全性も楽しさまでも向上する。鉄道事業者にとっては、安全性が向上し広告媒体として収益を拡大していける。では広告主にとってはどうか？ 媒体を設置し

地域を守る
「まもなくホワイトパードヘリポートに近づかないで下機体が姿を現すと、救急隊員運び込む。作業は数秒で終わるすぐ飛び立った。福岡・大分するTDK三隈川工場（大分医療搬送用ヘリコプター）ホリコブターを受け入れる数少ないこのヘリポートは、三隈川客の送迎用に建設された。大産が最盛期を迎えていたころ崎市と大分市を結ぶ九州横断したのを機に役割を終えて用ヘリコプターを運航する産に着目。面倒な手続きがに不向きな市内の公設ヘリコ設として白羽の矢を立てた。

かに当てはめて予防を

◇ 5 ◇

「自分もうつ病にかかるかも知れない」と言っている人がうつ病にかかるといってしまっている。うつ病はうつ病という病名を付けたことができれば、自己管理意識は自然と向上し、そのものは、基本的にうつすれば予防できるかという考えに進むことになる。従って、予防を考えるには「自分に関係ない」「人ごと」といった自分から当てはめて考えることができないため、結果として「予防する」ことが重要になる。

- ②労働時間の管理を適切に実施する
- ③ストレス(患病)の発散場所を設置する
- ④自己管理意識の醸成を図る

は考えない。表の4点となる。すなわち、インフルエンザのように予防措置を講じるフロアすら完成していない状態のように感じるのである。そこで企業においては、患病を言われると、聞いてあげたいと思っ

「コミュニケーションを良くしようと簡単に言うが、実際はなかなか難しい。部下とのコミュニケーションを良くしないと一生懸命努力して、自分がうつ病になってしまったという例も決して少なくない。もはや「患病のはけ口を作る」と「自体がひとつの重要な業務である」と認識しなければならず、もし社内にもその余力がない現状をどう考えるなら、専門事業者へのアウトソーシング（外部委託）を検討する必要があるのではないかと思う。

安全・安心プロダクツ



救急箱 エルプエンテ インターナショナル

大規模震災などに備えて避難セットを常備している家庭は多いだろう。しかし、もし外出時に災害や事件・事故に巻き込まれたら、救急車が到着するまでの間に、応急処置ができれば安心だ。この安心を提供する製品として、エルプエンテ インターナショナル（横浜市西区、藤原公生社長、045・662・4418）は、提供表示シール式救急箱「F+A」エフアラ

2005年の構想から準備を経て、09年に発売した。藤原社長は「最初は救急箱を作ろうとは思っていなかった。その時、カウンセリング活動の経験から、人間関係が希薄に

救急箱の提供 シール添付で意思表示

「応急手当に必要最低限なものを詰め込んだ」（同）と話す。包帯、ばんそうこうから解説冊子まで12アイテム入り。キット内のハサミで箱を切ると、添え木として使えるといった配慮も。「09年はエコブームだが、10年は社会貢献できる製品が求められる」（同）と考え、需要拡大を期待している。現在は、ボランティアチーム「F+V」が横浜市を中心に普及活動中で、今後は知名度向上がカギになりそうだ。価格は5197円で、シールに社名、団体名の印刷もできる。